

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5番23号		
自己評価作成日	令和1年10月20日	評価結果市町村受理日	令和1年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503445-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藻岩山麓の静かな住宅街の中にあり、四季の移り変わりを楽しめます。ホーム周辺のご近所さん自慢の家庭菜園を眺める事が出来ます。「住み慣れた地域での安心した暮らし」を含む3項目の理念をモットーに入居者一人一人に向き合い実践しております。一日の生活の中でもゆっくと会話や冗談を交し合い、笑顔の毎日を送り、「時間の流れを忘れさせる」と感じて頂けるような環境づくりを目指し実践しております。チームワークのとれた職員と入居者様と共に過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藻岩山の麓にある民家改修型2階建て1ユニット9名のグループホームである。玄関には座りながら靴の着脱ができるようスツールを置き、事業所内部の要所に多くの手すりが設置されている。利用者が食事の度に階段を昇降することで体力低下を防止しながら、いつまでも活動的な生活が継続できるよう、職員に支えられながら生活をしている。職員全員が食品衛生責任者の資格を取得し、衛生管理の履行・チェックをしながら食中毒防止にも役立っている。外出は花見や紅葉、ラベンダー畑の見学など季節の外出行事のほか、外食にも月1~2回行っており、利用者ごとに食事を選択することや周りの人との触れ合いの機会を作っている。毎月郵送している主治医の診断所見や介護支援経過は、家族にとって健康状況の確認と安心につながり、年末に利用者ごとのアルバムを作成し渡すことで、親族が集まった際に暮らしが確認できると喜ばれている。職員の外部研修受講や資格取得を推奨し、受講日は出勤扱いにすることや希望休日が取れるよう働きやすい就業環境を整えている。利用者の入居年数も長く、職員の定着率が高い事でも優れた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者や家族の尊敬や思いを尊重し、その人らしい暮らしを支えるよう理念を設けている。管理者と職員は日々、理念を念頭に置こうリビングや休憩室にも掲示している。	事業所内の数か所に掲示してある理念には「住み慣れた地域で安心した暮らし」の項目もあり、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容である。職員研修で日々の介護が理念に沿っているかの確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、子供110番や定期的に訪問される地域住民もおり、散歩時には挨拶を交わす等、交流をしている。又、近所の住民からは家庭菜園自慢の野菜の差し入れ等もあります。	町内会長の紙芝居や、地域ボランティアがオカリナ演奏に訪れている。町内会の回覧板は利用者と一緒に届けている。近隣住民が率先して除雪をしてもらえるなど地域からの協力を得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の管理者や職員が認知症サポーターの研修に参加する等、認知症の状態に対する悩み事の相談や直接来訪される方、電話での相談等、親身になって対応しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の会議には利用者家族や地域を代表するメンバーに集まっていたり、現状報告や意見交換を行っています。又、その内容を職員の申し送りでも話し合う等、サービスの向上に生かしております。又、議事録として全家族に送付しています。	運営推進会議は町内会長、地域包括、保健センター、民生委員、利用者家族と事業所職員で開催し、事業所報告や災害訓練、外部評価結果などを議題に開催している。全員に会議案内と議事録を送付して次の開催日も知らせている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業主や管理者が連絡を行っており相談や情報交換を行っています。又、日頃から起こる様々なケースや日常においても電話でのお話や直接出向く等、協力関係を築くように取り組んでいます。	関係機関から緊急の入居相談があり、利用者の受入れが可能になるよう相談をしながら入居に結び付けている。保護課の職員の訪問もあり、入退院や通院、暮らしぶりの報告をしている。市や区の管理者会議に出席し情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	支援にあたる時に本人の自由な生活を当たり前と考え、人として当然の権利を有する事が前提として日々、抑制や拘束のないケアを実践しております。又、身体拘束に関する研修や勉強会に参加しており全職員が身体拘束に対する知識と認識を持って取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会と虐待防止研修を年6回の運営推進会議終了後に行っている。身体拘束廃止マニュアルを利用し、毎回管理者がテーマを決めた研修をしている。職員は禁止の対象となる11項目や身体拘束による弊害を熟知しており、自由と安全が確保された暮らしを提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修の参加や勉強会に参加し施設内での取り組みを振り返るようにしている。全職員が場面ごとの対応で良いのか振り返り、虐待が見逃される事がないよう防止に努めています。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を必要とするケースは発生していないため職員各自の認識は薄いが、資料にて個々に学んでいる。又、高齢化が進む中で今後、必要となるケースを踏まえ学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族側の環境や状況を理解し、相手の立場を尊重し、説明しております。入居の際も丁寧に説明し理解、納得された上でサインをいただいています。他にも電話での相談や面会時でも説明し、納得していただけるよう体制を整えております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見は今日まで発生した事はありませんが、日常的なかかわりの中で思いを察し、又、要望や意見等、いつでも気軽に伝えていただけるような関係づくりに努めております。又、家族と外出する時はメモ帳を渡し利用者が話された事を自由に書いていただいています。	毎月の介護支援経過と主治医の診断所見書を家族に郵送し、生活状況と健康状態を知らせている。家族訪問時に必ず状況を伝えており、家族からの意見は業務日誌と連絡ノートに記録している。ホーム内に月間行事の写真を掲示しており、利用者ごとのアルバムを作成して年末に家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り後や月に一度の職員会議の中で意見や要望を聞いている。又、懇親会も数回開かれ、職場を離れ、自由な意見交換が出来る機会を設けている。	職員が受講したい外部研修や資格取得のバックアップ体制を整え、研修受講日は出勤日として調整している。職員の希望休日を事前に確認し、シフトを作成している。職員の定着率がよく、管理者や同僚にも相談しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から事業主が職員を気軽に会話出来る環境になっており、又、管理者が事業主へ職員の状況を説明し職員一人一人が向上心を持って働けるよう最大限の努力に努めております。希望休日や有給休暇も本人の意向に沿って作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修や外部研修に積極的に参加し職員会議や内部研修の中で外部研修で学んだ職員がリーダーを努め職員のスキルアップに活用しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での研修や同業者との懇親会や交流会に参加する等、活動を通じてサービスの質の向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や御家族と面談し、身体の状態や不安な事、困っている事、そして今一番支援してほしい事や本人の想いに傾聴し話し合い、安心していただけるよう最良の関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際は、ケアマネジャーと介護主任と共に本人の生活を中心とした支援を検討し、その上で家族としての悩みや不安、又、利用にあたっての希望等、直接話し合い、その際には事業所の状況や質問事項に合わせ受容的態度に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今一番必要とされている現状を傾聴し、その中で必要とされる支援を見極め対応している。又、他の社会資源の利用も含め検討し紹介や助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしているという気持ちで支援しております。一緒に掃除をしたり、会話の中で利用者から学ぶ事もとても多く、常に側に誰かが寄り添い、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の現状を職員と家族が共有し、生活を共に支えていく関係を築いています。又、施設の行事等にも参加され、本人との絆を大切にしながら支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夜間以外の面会時間に制限を設けず何時でも馴染みの方々が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めています。又、馴染みの場所に足を運んだり食事へ出掛けている。	お茶のサークルや旧宅近所の友人が訪ねてきている。趣味の手芸用品を購入して編み物を継続している。利用者の出す年賀状の宛名書きを手伝い、一緒にポストに投函している。家族と自宅に戻り外泊してくる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見極め一方的な介入にならない様に一人一人の感情を大切にされた対応を心掛けております。孤立しがちな利用者には個別に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活の場所が変わる直前も出来る限り支援を行い、共に次の生活の場所を探し、本人のその時に合った生活が出来る様に支援を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や想いを日頃から聴き入れ、実現できるように努めている。困難な場合は、職員会議等で話し合い検討しています。	焦点情報シートを使い、利用者の力や思いを引き出す機会を作っている。利用者目線で本人の言動やサイン、希望を記録しながら変化があればシートに加筆し活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する段階で本人、家族、関係機関より入居者本人の情報を記した基本情報を活用し、又、その生活の中で知り得た情報を職員間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の過ごし方や言動、行動等でどのような心身状況なのか記録に残し把握できるように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員だけでなく、利用者本人、医療機関や家族を踏まえ、チームであると捉え、日常的に意見交換ができています。又、職員の関係性も大変良く色々な場面に対しても否定的な捉え方をせず、現状に即した姿勢で取り組んでいる。又、介護計画は状態の変化や介護度の変更があったときは見直しを行い、それを基にモニタリングを行い計画を作成している。	日常生活記録にあらかじめ短期目標の支援番号を入力状況を記入している。これらの情報を基にサービス担当者会議にて全員でモニタリングを行い、医師の所見や本人・家族の意向も取り入れ3か月ごと、または状態変化に応じ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自のアセスメントシートに個々の生活の様子や支援内容を記載し、常に職員全体で情報を共有できるよう工夫している。又、申し送りのノートを活用とアセスメントシートの平行活用でも情報を共有しケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診、緊急受診は家族の要望に応じ、職員が付き添い支援している。又、買い物や外出同行等、必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長をはじめ、民生委員の定期的な訪問、又、防災に関するアドバイスや施設の行事等のボランティア等を受け入れてくれる等、密接な資源となっているが利用者本人が必要となる地域資源の活用には至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態により医療機関が変わる事はあるが、原則的には現在、受診されている医療機関を継続して月二回の往診や定期検診を行っている。又、定期検診の際は、病院側の車の送迎の支援を受けています。	診療報告書に往診と受診の記録をつけており、毎月家族へ主治医の診療所見書を送付している。緊急性のある受診の場合は家族へ通院することを連絡し、受診後も結果の報告をしている。	

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関が24時間対応のため、利用者一人一人が適切な受診や訪問看護を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必ず付き添い、医療相談室と定期的に連絡を取り、利用者の状態の確認や変化を把握し退院後の支援体制を整えると共に利用者本人は元より家族にとっても最善の環境で過ごす事が出来るように努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対し、入居時や面会時に今後の生活について話す時間を設け、どの様な段階に来た時でも本人にとって最良の環境が選択できるよう支援しています。又、医療行為が必要となった時は医療機関と連携をとり対応しています。	事業所で看取りはしていないが、常時の医療行為や食事を経口摂取できなくなるまで、医師の指示を得ながら安心して暮らせるよう支援をしている。退居後にも入院先に見舞いに行くなど関係を継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の講習を終了し、各自が常に手帳を持ち歩き、施設内外でも役に立てるよう、又、日常会話の中でも応急手当や初期対応について話し合い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、夜間想定避難訓練をはじめ、昨年の地震災害を教訓に災害時のマニュアルを基に職員間で話し合いを行うと共に地域との協力体制を築いています。	年2回の夜間想定訓練は地震から火災になった想定で行っており、非常事態避難マニュアルと防災対策マニュアルを整備している。災害時は職員の応援や近隣住民宅へ一時避難、毛布の貸し出しを受けることなどの体制が整っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重し言葉かけにも失礼のない様に配慮し、又、個人記録は利用者から見えない様に保管しております。	利用者の自尊心、自己決定を促すなど本人を尊重する姿勢で支援している。呼びかけは名字にさんづけである。個人記録は保管場所を決め、管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の伝えたい事や思いを日常生活の中で表情や言動で察し、利用者一人一人が自ら決定出来、意欲低下にならないように支援しております。又、表出が困難な方でも一人一人の能力に合わせ自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まりを優先するのではなく、一人一人の生活が果たして本当に利用者の望んでいる生活なのかを常に考え、意思選択できるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、又、自分で身支度が出来ない利用者には天気や気温、季節に合わせ、一緒に選択できるよう支援しています。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べ物があれば取り除いたり食材を替える等工夫している。又、重度化等により、一緒に準備や片付けは難しくなってきたが、おやつや盛り付けやテーブル拭き等は利用者と一緒にしています。	栄養バランスのある献立と食材が届き、美味しく調理されている。時々メニューを変更しおはぎ、赤飯、いなり寿司、季節の行事食を提供している。室内食レクと称した寿司セットの出前やスイーツを食べる会、フードコート、和食や中華レストランへの外食など、食の楽しみごとが豊富である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の希望に合わせ、量を調節している。又、一人一人の活動量、栄養状態に関して主治医に伝えている。水分摂取量は、1300ccを目標とし状態に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後、口腔ケアを行っている。歯ブラシも月に一度交換し、就寝時には義歯を預からせていただき洗浄剤にて洗浄させていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄感覚を最優先し、極力失敗に繋がらないように声かけをしている。出来る限りトイレで排泄出来るよう援助し、自尊心にも十分配慮しながら支援しています。	全員分の排泄チェックを行い、生活アセスメントシートに記録している。自立している利用者を含めどのような便をしているか週に一度確認し健康状況を把握している。尿意を失念している利用者へは声かけ誘導し、夜間は本人の状態に沿って対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別のアセスメントシートにより、排便の状態や状況を把握している。又、食事、水分摂取量の管理を行っている。運動や腹部マッサージを行うなど、薬だけに頼らず、自然排便に繋げるように努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週4日行っているが、現在まで入浴時間の希望が聞かれず、声かけにより入浴していただいている。又、本人の希望に配慮し、体調や気分等、考慮しながら入浴の声かけを行っている。	一人週2回、午後の時間帯で入浴を支援し、拒む場合は無理強いをせずタイミングを工夫している。湯加減の好みを把握した時は連絡ノートで共有し、シャンプー剤、ドライヤーかけなど個々の希望に応じている。毎年クリスマスに入浴セット(垢擦り・バスマット等)を利用者全員にプレゼントし、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日、お昼寝する方、利用者一人一人の体調に配慮し、生活リズムを作るようにしています。日中はプライベートタイムを取り入れたり、就寝前は一人一人好きな事をして過ごし、気持ち良く眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方箋を添付し随時、確認出来るようになっている。職員間で情報の交換や共有に努め、誤薬のない様支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で自然に自分達で役割を見つけ、継続できるよう支援している。又、気晴らしが出来るよう散歩やドライブに出掛けている。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外気浴など一人一人の体調や希望に添って支援しています。又、御家族との外出も多く、施設でも外食や買い物等、月の行事以外でも天気の良い日はドライブを楽しんだり、利用者の状態に合わせ支援しているが、利用者の中には通院がベースの外出となっている事も現状で外出を減らさざるを得ない時もある。	気候のよい時期は近隣の公園や周辺を散歩し、ベンチに座り外気浴や事業所前でラジオ体操をしている。ドライブは、大学の敷地内にあるラベンダー畑や南の沢神社などへ行っている。外食を兼ねた外出行事が多く、レストランや商業施設へ出かけている。買い物は職員と一緒に商業施設に行っている。家族との外出では、ドライブや花見、小樽などへ出かけている利用者がある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向を確認し、金銭の管理はホームで行っている。外食や買い物では本人がメニューの値段や買い物の金額等、本人が決定し、お金を所持し使えるように支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者一人一人の能力に応じ、深夜以外は自由に居室で使用する事が出来ます。手紙を出す時の支援も行い郵送されて来たものは開封せず本人に渡しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は利用者がいつでも集まり、談話できる共有のスペースがあり、窓からは適度な光の照明となり温かい印象も与えています。職員は常に不快な音を発しないよう注意を払っており、利用者一人一人が居心地良く過ごせるよう工夫しています。	事業所全体が家庭的な雰囲気のある造りで温かみがある。キッチンからソファコーナーやダイニングが見渡せる。壁面に季節モチーフのイラストと歌詞を掲示したり、利用者の見えるところに事業所の理念を掲げている。階段は滑り止めを貼り、手すりは高低、左右など配慮がある。いつでも飲めるウォーターサーバーを設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う利用者同士で好きな場所で会話を楽しんだり、歌を唄ったり、一人で過ごせる空間があったり、その時、好きな場所を選択できるよう支援しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定の際、本人や家族と相談しながら馴染みの家具や小物を自由に持ち込み、利用者本人が置き場所や思い出の物を飾るなど、自分らしく過ごす事が出来る空間、環境づくりを行っている。	居室入り口に手作りのネームプレートを設置し自室と分かるようにしている。誕生日祝いの色紙や好みのものが掲示され、写真や利用者の作品、家族からのプレゼント品などを飾っている。馴染みのタンスや電化製品などが持ち込まれており、安心できる環境をサポートしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の残存能力を見極め、利用者一人一人の能力に合わせ、安全かつ個々の自立した生活を支えられるよう日々工夫し支援にあたるよう努めています。			

目標達成計画

事業所名 ポテトタウン北の沢

作成日：令和 1年 12月 12日

市町村受理日：令和 1年 12月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1			職員のスキルアップに向けた取り組み	職員が希望する研修や講習等、勉強する機会を支援し、スキルアップを目指します。	
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。